

# 第7回文京区アカデミー推進計画策定協議会

日時：平成23年1月27日

午後6：30～7：30

場所：文京シビックセンター24階

区議会第1委員会室

文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

第7回文京区アカデミー推進計画策定協議会会議録

(敬称略)

「出席委員」

会 長	山崎 一穎
副会長	水越 伸
委 員	野口 洋平
委 員	久松 佳彰
委 員	伊藤 明子
委 員	長尾 栄一
委 員	和田 懋
委 員	内野 篤
委 員	武智 弘英
委 員	清水 智博
委 員	佐藤 成臣
委 員	榊田 慶輝
委 員	中川 澄子
委 員	檜崎 華祥
委 員	白井 圭子
委 員	奥田 匠
委 員	佃 吉一
委 員	森岡 隆
委 員	市川 正明
委 員	大石 坦
委 員	大野 祐子
委 員	熊田 美穂子
委 員	黒木 美芳
委 員	國分 眞史
委 員	柳澤 愈
委 員	山本 重子
委 員	手島 淳雄
委 員	徳田 隆

「出席幹事」

アカデミー推進部アカデミー推進課長	八木 茂
アカデミー推進部観光・国際担当課長	小野 光幸
アカデミー推進部スポーツ振興課長	古矢 昭夫

○八木課長：お待たせいたしました。それでは時間になりますので、会長開催をお願いいたします。

○山崎会長：こんばんは。お寒い中、最後の仕上げということでお集まりいただきましてありがとうございます。それでは第7回目になりますけれども、アカデミー推進計画策定協議会を開催したいと思います。まず事務局の方から出席の確認と資料の説明をしていただきたいと思います。よろしく願います。

○八木課長：では本日の出欠でございますけれども、欠席の方は7名からご連絡をいただいております、青木委員、渡辺泰男委員、上田委員、中井委員、田辺委員、笠井委員、渡辺みゆき委員でございます。幹事は小野澤企画課長以外全員出席をしております。以上です。

本日の資料でございますが、事前に郵送でお送りをしております3点、次第と第31号と書かれました文京区アカデミー推進計画の素案意見募集の結果、それから第32号と書かれました文京区アカデミー推進計画（案）の資料ですが、お手元でございますでしょうか。はい、ありがとうございます。それから席上には、本日4点資料を置かせていただいております。座席表、それから文京区アカデミー推進計画素案意見募集の結果ということで第31号の資料との関連でございます。それから3つ目がこの協議会の意見シートです。それから4番目としましてチラシです。2月19日開催の国際交流フェスタでございます。以上でございます。

○山崎会長：はい、ありがとうございました。本日の議題に入りますけれども、2つありまして、アカデミーの推進計画の素案に対してパブリックコメントをいただいておりますので、それに対する対応についての説明が第1点です。それから前回の議論に基づいたところの本計画の最終案について、議論というよりも、むしろ確認をしていただくという最後の会になろうかと思っております。まず、本日の議題、この2点を確認した上で事務局の方からパブリックコメントについて説明をいただきたいと思います。

○八木課長：それではまず確認でございますが、発言の際には挙手をしていただきまして、席上のマイクのボタンを押して発言をされるようお願いいたします。ご自身の発言が終わった後はお消しいただくということでご協力をお願いいたします。

それでは、まず資料第31号に基づきまして、先のアカデミー推進計画策定協議会でご議論いただきましたアカデミー推進計画素案に対します意見募集を行った結果のご報告をいたします。

資料1-(1)にございますとおり、パブリックコメントということで、ここに書いてある1カ月間、意見募集を行っております。意見の提出は2組の方、団体が1人と個人が1人ということで2組の方から12件ちょうだいしております。また区民説明会につきましてもご覧の日程、場所の方で開催をいたしまして4人の参加をいただきまして、うち3人の方から10件の意見をちょうだいしたということでございます。これらの意見募集、あるいは説明会の開催についてはPRを区報、ホームページ、それからアカデミー施設をはじめとする区有施設30カ所等で、ポスター・チラシ等でご案内をした結果だということでございます。これら22件の意見とそれに対しますアカデミー推進部の考え方をまとめたものが本日お配りした資料の中の次のページということになっております。本日の資料は、既に送付した資料から大きく2点変更をしております。第1点は今申し上げましたアカデミー推進部の考え方を回答欄ということで設けまして追記をした点です。

2点目というのは記載の順番を、前回は発言順だったのですけれども、今回は体系順に整理をしまし

た点でございます。

それでは概略ということでご説明をさせていただきたいと思いますので、資料の番号に沿って説明後にご質問していただけたらと思います。

まず1番ですね、説明会でのご意見が1番ということで、文京区にしかできない内容や特色が出てるとよい、という意見をいただいていますけれども、これにつきましても第2章、計画の考え方の中で文京区らしさを最大限生かして事業を進めてまいりますという記載がございますので、こちらの方でということで書かせていただいております。それから3番～5番につきましては、個別的な講座の充実というような観点でのご質問だと思われましても、これらにつきましてはそれぞれ講座の充実とか大学での講義を聴いてみたいと、こういったような個別なご要望につきましても、一応考え方としては講座の充実ということで触れていますということを書かせていただいております。それから8番の方で区民が知識や経験を地域に還元するということは、講座を受講した人が地域に還元する仕組みということなのですが、これから作るということかと、こういうご質問なのですけれども、お答えとしましては現在も財団法人文京アカデミーの方でお願いをしています区民プロデュース講座というところでは、区民の得た知識を還元すると、こういった講座を開いております。こういったことも含めまして、3番の区民、団体の主体的な活動の支援と、こういったところに考え方をお示ししております。今後推進をしてまいります、このように書いております。

スポーツについては9番で生涯を通じて継続して行うスポーツをとということでございますけれども、これも大きく1番のスポーツのきっかけづくり、2番の楽しむ環境づくりの中でお示しすることを通じて計画を推進してまいりますということで書かせていただいております。

それから11番のご意見ですけれども、3章で体系別アカデミー推進事業というものを記載されていますけれども、さまざまな課で実施している事業を今後アカデミー推進部に集約していくのかと。それからカルチャーセンターとの統合となるのではないかなと、こういうご意見なのですけれども、アカデミー推進部は調整と連携を図ってまいりますということをお答えさせていただきまして、カルチャーセンターとの関係ではですね、区が行ったり指定管理者が行ったり、あるいはまた大学が行ったりということで、役割を分担しながら進めてまいりますので、統合にあたるという考え方ではありませんという趣旨で回答させていただいております。

それから12番については、財団法人文京アカデミーと区の関係ということなので、やはり一般的な関連をご回答しておりますので後ほどお読みいただければと思っております。

次は3ページ以降がパブリックコメントについてのご意見ということでございます。13番につきましては施策、3行目なのでしょうけれども、施策との関連を図って各部にある連携を図ってほしいと、こういったご意見でございますので、これにつきましては、施策ごとの関連性につきましては第1章の中で3-(3)各分野の連携というところで示しておりますと、ご意見につきましては今後の事業運営の参考とさせていただきますと、いうふうに書かせていただいております。

それから14番については講座のレベルの問題ですが、こちらはちょうど4番のご質問と逆で、入門者に手厚くしてくださいという趣旨でございました。私どもは入門者の方にも、それからやや高いレベルの方にも合うような形でご提供していきたいと考えていますよと、そういう趣旨で書かせていただいております。

それから17番～22番につきましては国際交流に関する意見ということになっております。固有名詞の部分はですね、〇〇ということで、そういう符合で書いてありますが、国際交流についてのご意見は、既に計画としては記載があることを、実施の際の要望という形で書かれているのではないかなというふ

うに思われます。従いまして、私どものご回答もこういった個所に記載がありますので、ということで今後の事業運営の参考とさせていただきますと、このような表記で書かせていただいているということでございます。

以上の区民説明会あるいはパブリックコメントでご意見はちょうだいしておりますが、私どもの考えでは計画の文言を修正するのには至らないというふうに判断をしておりますので、そのような対応を取っていきたいというふうに考えております。この点については以上でございます。

○山崎会長：説明会に参加した人数、あるいは寄せられた意見等が若干聞いていると少ないような気もしますが、しかし、ここで出て来た意見がこういう形で集約され、説明をされたわけですが、皆さん方ご意見などおありの方がありましたらひとつ伺いたんですが。私が言うと、また混乱を起こしそうですけど、ちょっと出来がいい回答すぎる感じがちょっとするのですがね。まあ、方向としては悪くはないのだけれども。難しいですよ、初心者には厚くしてほしいという、片方で意見が出て、片方ではもう少し上級者の方への対応をしてほしいという、どうしても、全部段階的になっていけばいいのだけど、そうはいかない事情がありますから。もともと意見そのものが、矛盾とは言わないけども、どうしてもなかなかバランスの取れないような意見ですけれども。

○八木課長：例えば3番、4番のご意見については、説明会をやっているその場でご質問をいただいていますので、私どもの方で申し上げたことについては一定ご理解いただいたのではないかなと思いますけれども、ご要望が少ない講座を、ご要望があったからといって即座に区として実施ができるとは限りませんよ、ということに対しては、それは分かりますよ。このような形では、やりとりはさせていただいております。ただ、おっしゃりたいことは、ご自分ご興味のある分野については、やはり区としてやってくれないかと、こういうことはおっしゃっています。ということだったと記憶しております。

○山崎会長：いかがでしょうか。

○長尾委員：レベルの高い方はご自分で基本深めればよろしいのであって、裾を広くした方が私はいいのではないかと。で、実際問題として初心者というか、その方が区民の人口的にも多いのではないかとと思うので、私はそのままよろしいのではないかと思います。

○山崎会長：はい、ありがとうございました。久松先生どうぞ。

○久松委員：国際交流の久松です。先ほどご説明いただきましたように、パブリックコメントの16番～21番までですか、非常に長文の丁寧なご意見をいただいて、郵送で送られてきて、非常に実際にはこういうところではいろんな問題が起きているのだなあということで読ませていただきました。これはその回答の仕方として、これでいいわけなんですけれども、ただ、多分その伝えたい思いに対して正式な回答というのは、それを逆なでするというようなこともあって、で、どういうことがアカデミー推進計画の中に入ると可能になるのかっていうことを、それを見て事業運営の参考という中でお願いしたいというふうに思います。私が特に思いましたのは、日本語を教えるときなどに、教材・備品等の保管場所って、これはまあ、我々教員がいろいろ講師などをしに行くときに、ロッカーがあるかないかでは、もう全く教えるものの内容が変わってくるというぐらいですので、ある意味同業者として考えると、恐らく

こういういろんな地域センターの中で、1回、1回の資料ということを前提とすると、ロッカーなどの保管場所というものは、ひょっとしたら、もう既に手配されているのかもしれませんが、多分こういうところに書かれているということは、あんまりないということなのだろうと思います。じゃあアカデミー推進計画でそういうものをサポートしていて、こういうものがある程度中長期的に続くという、まあ、日本語を勉強するというのは1回でできるものではないので、ということをお前提としていると、何かそういうことのサポートというのができないだろうかというのは、私自身こういうものを読んで感じました。ですので、それはひょっとするとそういう地域のセンターの運営のところでも多分いろんな問題が出てくるだろうと、スペースの問題、それからほかの生涯学習の何とか、いろんな例えば部会のもを置きたいとかっていう要望との関係とか、出て来るのだろうとは思いますが、非常に真摯なご意見だと思いますので、ご検討をいただければというふうに思います。

○山崎会長：どうもありがとうございました。どうですか。

○八木課長：荷物を置く場所というのは、実は区民の方からもご要望がありまして、これは実は国際交流をやっている方だけではなくて、例えばほかのサークルにおいても、このことについて扱ってあげればということをおっしゃる方がいるということはおっしゃいます。ただ、現実問題として今場所があるわけではないという中で、どういうふうにしようかということで、今度新しく建て替えをしようと思っておりますアカデミー施設においては、何とかそういった場所を確保できないかなということは考えておりますが、ただ、これを作れたとしても、公平な利用ということも考えなければならぬ立場でもございますので、ご意見を伺いながら、私ども行政としてはどこまでそういったものの設置が可能かということも考えてまいりたいと思っております。

○山崎会長：はい、ありがとうございました。ほかにご意見ございませうか。それではこういう形で、まあ、回答の方は少し甘い所もありますが、行政の努力を待ちたいと思っております。では続きまして本旨にあたります策定計画（案）の素案、何回か修正をしましてまいりました。言ってみれば最終的な案という形になりますので、ご確認の意味で事務局の方からご説明をいただければと思います。

○八木課長：では、次に資料の32号によりまして文京区アカデミー推進計画（案）ということでご説明をいたします。この計画の案につきましては3つの観点から修正をいたしました。素案から案になった段階で3つの観点で修正を加えてございます。まず第1に文言の修正ということでございますけれども、実は前回の協議会終了後に、11月末ですけれども、文京区議会に文京アカデミー推進調査特別委員会がございました。こちらの方で一定の報告をさせていただきました。その際、区議会の方から幾つかの意見をちょうだいしておりますので、それを反映させたということでございます。主に総論の部分で文章の構成やくくり方についてご意見をちょうだいしております。またそれとは別に、事務局でもさらに分かりやすい表現となるようにということで文章の一部修正をしております。いずれの修正も文意が変わってしまうというのではなくて、むしろ文意を正確に伝えるために文章の修正をしたということでご理解いただければと思っております。主な変更点には網掛けをしておりますので、ご覧いただきたいと思っておりますが、後ほど3点ご説明をいたします。

修正の第2は難しい言葉の説明のためにご要望がございました「脚注」を全部で20カ所あまり挿入しております。こちらをご確認いただければと思います。

第3に72ページからの体系別アカデミー推進事業、こちらにつきましては23年の1月1日現在のものということで内容を更新させていただきました。それに合わせて記載の順番も変更しております。

では先ほど申しましたところ、文言の修正で大きな修正箇所ということで、3カ所のみ簡単にご説明をいたします。1ページをご覧いただきたいと思います。1ページで網掛けが多くて驚かれたかもしれませんが、実は隣の2ページの(2)に書いてあった文言をそっくりこちらに持っていったということがございます。それはどこだったかと申しますと、1ページの下から5行目～下から2行目にかけて、「これまでに進めてきた文京区生涯学習推進基本構想」というところから「一本化して引き継ぐ」というのが、実は2ページの(4)目的のところに入っておりましたのですけれども、これは目的というよりは背景にあたるだろうという整理をさせていただきまして、こちらの方へ持ってきたというものでございますので、これを持ってきて、あとは文章の並びを少し、組み立てを変えたということがございますので、全体に網が掛かったような状態になっております。(2)の方はその部分で削除したということで全体に網を掛けさせていただいているという部分でございます。

2点目は11ページでございますけれども、第3章計画の進め方です。こちらの2番、計画の推進体制というところがございますけれども、こちらは大きく網掛けの部分のブロックは前後移動させております。前、後ろを逆にしたという状態です。それで現在の書かれているところの下のブロックの網掛けの下から3行目、「さらに」というところから「計画の進捗状況を集約し調節をするとともに、」ということで、これはアカデミー推進本部というのは公募区民等で構成をいたします(仮称)アカデミー推進協議会からの意見や提案を踏まえて、計画の推進に必要な事項の決定をいたします、という趣旨をここで入れさせていただきまして、区の本部と区民の協議会との関係を明確に記述したということです。そういった関係の図表を新たに挿入したのが11ページの上部です。こういった関係を取りながら、区民の方々と区の本部で連携を取りながら進めていきますよと、こういうことでございます。

それから3つ目は、同じく12ページのところでございますけれども、見直しの期間を今まで5年後としてあったのを1年ごとにと、毎年行うということで修正をいたしましたので、こちらもご確認いただければと存じます。素案から案が変わった際の修正は、以上が大きな点ということでございます。以上です。

○山崎会長：改めて言いませんけれども、1ページ目と12ページ目、上段と下段と、この3カ所ですね。今、修正の3カ所を見てまいりました。この点に関してご意見を伺わなきゃいかんだろうと思います。意見がありましたら1つお願いしたいと思います。

○柳澤委員：11ページの「文京区アカデミー推進協議会」というような会は今まではなかったのだった。新しいものが出て来たわけですか。

○八木課長：はい、今まではなくて、今回の計画の進捗状況を確認するために今後作っていききたいということで、仮称ということでございますので、これからそういったことの整理をしていくと、こういったような名称で作っていききたいと、このように考えております。

○柳澤委員：新しくこれは。

○八木課長：はい、新しいこれからということですので、まだ形はございません。これからということ

です。

○山崎会長：いずれにしても修正箇所は、今までやってきたものが、目的のところにあった、それがやはり本当だったらおかしいので、背景の方に持っていったという。それから推進計画についてもどこがどういうふうに推進し、どういうふうに調整していくかというようなことを図示によって明確にしていたということ、そういう点では納得できる修正だろうというふうには、私自身は受け止めております。特段にご意見がなければお次の方の意見を。ほかにご意見ありませんか。長尾委員。

○長尾委員：これとは直接関係ないとは思いますが、前々から教えていただきたいと思っていたのは、行政とアカデミーの、アカデミー財団との関係はどういうふうになっていますか。

○八木課長：行政と財団との関係ということで、実はご質問がありまして、先程は読まなかったんですけども、意見募集の結果ということで、今日席上配付させていただいたところの12番に書いてあることを再度こちらで読ませていただきます。要は、文京区は生涯学習事業の総合的な調整・計画、あるいは今回のような計画の策定、それから今年的には文化祭の文化事業、それから観光・国際交流、それからふるさと歴史館も運営しております。それから今建設中ですけども、森鷗外記念館、こういったものを行うというのは文京区です。そして、財団の文京アカデミーは区が全額出資した法人ですけども、区の指定管理者ということで区の総合的な調整、それから計画の下に生涯学習事業・各種講座・文京区アカデミー・講座等々をやっていますけれども、響きの森公会堂でのホール事業、それからアカデミー施設の管理等を行っている、こういったことが文京アカデミー財団と区の関係ということでございます。

○長尾委員：はい、分かりましたけど、この推進計画の内容がその財団への影響といいたいまいしょうか、財団に何か指示とかそういったようなものはあるのでしょうか。

○八木課長：実は、財団は指定管理で運営するというのがございまして、で、指定管理というのは、指定管理者を議会で議決してもらって初めてお願いができるということで、必ず財団というふうに決まったものではなかったのです。ただ今回議決を議会でいただきましたので、23年度から5年間、またあらためまして財団の文京アカデミーに指定管理をお願いすると、こういうことになりました。従いましてこの計画の中に、担い手の中に指定管理者って書いてあるところは、文化的なことであれば、この財団の文京アカデミーが担ってもらおうと。このようなことでありますので、ここに書いたことを、今後区としては財団と連携をしながら少しでも進むように努力をしていくと、こういう形になるというように考えております。

○山崎会長：長尾委員、いいですか。

○長尾委員：はい。

○山崎会長：ほかにご意見ございまいしょうか。なければ先ほどパブリックコメントと、それから今の本旨のパブリックコメントについては久松先生からご意見を伺っております。今、長尾委員からも出まし



たから、それらについて最終的にまとめる段階において会長と副会長、ならびに事務局に一任をいただければありがたいと思いますのでよろしく、ご賛同いただければありがたいと思います。ありがとうございました。はい、では事務局の方から。

○八木課長：それでは、あと何点かご説明をいたします。ご了解いただきまして誠にありがとうございました。今後の日程というところでございますけども、本日最終案として取りまとめさせていただきましたこの計画につきましては、今後アカデミー推進本部で決定をしまして、その後にその内容を今度は区議会の、先ほど申し上げた文京アカデミー推進調査特別委員会に報告をする予定でございます。そして3月になりますと、順調にいけば計画を策定すると、こういう予定になっております。また最終的な計画書ですので、製本をいたしますので、こちらにつきましては4月上旬にはそれぞれ皆様の方のお手元に1冊ずつご郵送をさせていただきたいと思っておりますが、団体推薦等でご出席の方につきましては、所属団体に報告する際に必要だということがあれば、事務局にお申し付けくだされば、追加して配付をさせていただきたいと思っております。

もう1点は資料の最後でございますけども「交流フェスタ 2011」ということの情報提供のチラシがございますので、実行委員長の森岡委員に説明をお願いしてよろしいでしょうか。

○森岡委員：はい、それではお手元にあります、このチラシをちょっとご覧いただきながら説明をさせていただきたいと思っております。私、昨年に引き続き実行委員長をやらせていただいておりますが、この国際交流フェスタは今年で5回目です。5回目になりまして、5年、皆様のお力添えをいただきながら喜ばれるような内容になってまいりました。今年は参加団体も少し増えまして、にぎやかなフェスティバルになるのではないかと考えております。まず、この表に書いてありますとおり、2月19日の土曜日、10時から16時までこのシビックセンターの1階～地下2階までを使いまして、内容につきましては裏面を見ていただければだいたいのレイアウト、それからどこでどういうことをやるということが大まかにつかめるとは思います。1階、地下1階、地下2階というふうに大きく分かれておりまして、メインになるところは地下2階のステージのある広場が中心になりますが、それぞれのコーナーにつきましては、地下1階のアカデミーの奥の方に場所がございます。そちらを使うと、それぞれの内容によってはそういう形で使ってイベントをやりたいと思っております。それで、これをだいたいご覧いただきますとお分かりになると思いますが、国際交流ということにはなっておりますが、このアカデミー推進会議は5つの分科会がありますが、このフェスタにつきましては室外でやるということもありまして、スポーツとの直接の関係はあまりないですが、そのほかの分科会との関係はそれぞれにあるのではないかと考えております。それで、できればここにお集まりの皆さんに当日現場に来ていただきまして、実際にいろいろやっていることをご覧いただいて、国際交流というものに対して今後どういうふうに自分たちもやっていったらいいかということも含めて、できればぜひアドバイスをいただきながら、また来年も参考にさせていただければと思っております。

あと実際にこれを開催するにあたりましては、アカデミー推進部の国際担当の小野課長さん、それから橋本さん、新宅さんという事務局を引き受けていただいている方の力が非常に多ございます。これからもぜひ当日まで皆様のお力添えをいただきながら、皆さんと一緒に楽しい、私たちお迎えする方も楽しく、また来ていただく方と一緒に楽しみながら国際交流を進めていきたいと思っております。ぜひ皆様のお力添えをよろしく願いいたします。

○八木課長：それでは最後のご連絡になりますけども、恒例になっています意見シートにつきましては、引き続き2月1日ということにさせていただいておりますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。私からは以上でございます。

○長尾委員：1つお願ひがござひます。よろしいでしょうか。この計画の区民への周知の場合に視覚障害者にも分かるように、例えばSPコードを付けるとか、あるいは音声、そういったようなものを利用して周知をしていただきたいというお願ひです。以上です。

○八木課長：ご意見として何うということでしょうか。

○長尾委員：はい。

○山崎会長：全体によくまとまってまいりました。実は時間もだいぶ経っておりますけれども、せっかくの機会でございますので、各分科会の座長を務めていただきました先生方がいらしてゐるわけで、そういう先生方から、この文京区が今後進めていくにあたってひとつアドバイスをいただければ私としては大変ありがたいというふうに思ひてゐますし、また参加されました感想等を含めて、水越先生から皆さんにメッセージをいただければありがたいと思ひます。お願ひします。

○水越副会長：ありがとうございます。私は文化芸術分科会の担当をさせていただきまして、今日は笠井さんがいらしてないですけど、柳澤さん、榎崎さん、内野さん、中川さん、長尾先生、皆さんと夏を通してというか、いろいろ考えさせられた非常にいい経験になりました、非常に勉強になりました。本当にありがとうございます。私自身はこういう一種の文化政策とか行政的なことに関わって仕事をするということはほとんどないので、その点でもこういう手続きの分化だとか、全体のバランスの取り方みたいなものについては文京区の方々あるいは山崎先生にはいろいろ勉強させてもらったと思ひてゐます。

僕自身は大学でいろいろ教えたりなんかをしている立場になるわけですが、ほかの大学と同じように、東京大学も文京区の中にあるわけですが、一番最初のころに言ひましたように、あの帝国大学が一番文京区のことを考えてないのではないかというふうに思ひてゐます。ただ一方で、今東京大学の中で地域と連携をするという組織が正式にできて、私は多分その使い走りをする立場にもなることになると思ひますので。今日、分科会の区別は別にして、お集まりの皆さんはそれぞれ地域の中でいろんなことをなさってきている方だと思ひますので、今後は多分この計画にのっとるような形のことを、もちろん東大だけじゃなくてほかの大学が幾つもあるわけですが、我々もほかの大学と協力をしながら、いろいろやらせていただきたいというふうに思ひてゐます。

僕自身は、もともとは文化芸術というメディアの研究をしています。少し文化庁なんかにはわがままを申しまして、桜祭りのころに携帯を使って写真を撮って俳句を作ってもらって、それを投稿、ウェブサイト、ホームページにってもらって、そういうものを地域の、東京ケーブルビジョンの方で番組にもらって。あちこちでそういう写真と文章で「画文」というのですが、そういうものをみんなで作るようなことをやりながら、国際交流をしたり地域交流をしたり、いろんな写真を撮っていらしてゐる方がいらしてゐるわけですね。そういうものをダイナミックなアーカイブにしたりということ、うちの院生なんかとこれからやっつけよう。横断型のことで山崎先生がお考えになったようなことを少

しお手伝いできればと思っておりますので、今度はこれを活用する側としてやっていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○山崎会長：どうもありがとうございました。野口先生。

○野口委員：観光分科会の野口でございます。実は毎回大変緊張しながら参加をさせていただいておりました、特に全体の会議は緊張しながら参加させていただいているのですが、それというのも前半の一番最初のころの全体の会議で、なぜこのアカデミーのことを議論するのに観光という分野があるのだということで幾つかご質問もいただいて、何とかご理解いただきながら進めたいなあっていうふうには思ったのですが、本日こうして完成しつつある冊子を拝見すると、何とかたどり着けたなというふうに安堵しているところでございます。また拝見するとパブリックコメント、それから修正の状況なんか拝見すると、手前みそで大変恐縮なのですが、観光については比較的修正が少ないなというふうに。それからパブリックコメントでもご意見がなかったもので、これは関心がないのか、それともよくできているのか、ちょっと私としては判断が付かないわけでございますけれども。それは分科会の皆様のご努力が一番大きかったなと思っておりますし、また、実は先ほど5年に1度見直すのを毎年に変えたというお話だったのですが、これ非常に素晴らしいなと思って。実はその、なぜ観光の部分がスムーズに進められたかという、これは座長が優秀だったわけじゃございませんで、もともとビジョンという、ある種の戦略的な、骨格になるようなものがもともとあったという、それを先に定めてあったということ、それをベースにして進めることができたというのが非常に大きかったのだと思います。

そういった意味で、その毎年見直していくというのは、より皆さんのニーズに答えるような展開をするという意味でも、きめ細かく計画を見直して、まあ勇気をもって見直さなきゃときもあると思うのですが、計画を見直しながら進めていけば一番大きな効果が出るのではないかな、成果が出るのではないかなというふうに思います。ですからこの毎年見直していくということが、実はこの計画の中で非常に重要なポイントになっているのではないかなと。最後の最後に修正したポイントではありますけれども、実は今後、この計画がより充実したものになる可能性を持つ大きな要因になったのではないかなというふうに感じておりました。それは繰り返しになりますけれども、観光の部分が比較的スムーズに進めることができたのは、まさに先にベースがあったからだというふうに思っておりますので、今回皆様のお力でお作りになったこの計画を、また時間を空けずに見直して、よりよいものにしていただければなというふうに思っております。最後に私は観光教育ということで、学生たちに観光産業とか観光の交流だとか、そういったことに携わる人材を育てようとしているわけですが、ライバル大学ではありますけれども、東洋大学さん、この文京区にございますので、そこに非常に伝統のある観光の学科がございまして、そういった学科さん、そういった東洋大学さんなんかと連携されながら、地域を客観的に見る、それはまさに観光の最初のステップだと思うのですが、一番最初によそ者から学んだ方がいいというふうに生意気なことを申し上げましたけれども、まさにそういったことが観光の視点かと思っておりますので、そういうことをこの文京区の中でも専門にやっている大学さんでございますので、そういったところと深く連携して、学生も育てていただけたらいいのではないかなというふうに思っておりますので、地域の中で学生を育てて未来の観光の分野の発展につなげていただければいいなというふうに思って、最後はお願いですけれども、そういうふうに感じております。ありがとうございました。

○山崎会長：どうもありがとうございました。久松先生。

○久松委員：国際交流の久松でございます。まず分科会では、今日はほとんどいらっしやっておりますけれども、熊田さん、佃さん、伊藤さん、清水（文）さん、森岡さん、國分さんと、非常に充実した時間を送ることができました。その結果として分野別の目標として旗が立ち、そして基本的な方向としても、かなりのことをすくえる枠組みはできたのではないかというふうに思っています。今ご紹介がありましたように、計画自体、全体を進めていくガバナンスを非常に1年ごとの軌道修正ということで、今後日本、文京区も多分変わっていくときに、対応できるようなものでできているということで、非常に器、形、それが計画でありますけれども、非常にいいものができたと思います。あとはそれを運営して、そして魂を持って運営していくということだなというふうに、読みながら気を引き締めているところです。そういうことで、まず委員の方々にこういう充実した入れ物が作れたということを感謝したいと思いません。

我々のところは、先ほどパブリックコメントのところで申し上げましたように、非常に実際の経験に根差した素晴らしいコメントいただきまして、まあ自分のふつつかな授業の経験からしますと、意見や質問が出るところはこちらもやりがいがあった。ということですので、多分、これから入れ物に中身入れていくところに、恐らくいろんな摩擦は起きてくると思うのですが、結果としては良い方向に進んでいくのではないかというふうに期待をしています。

個人としては、私は国際観光学科があります国際地域学部に所属していることもあって、個人的に自分の同僚たちが文京区と観光面で協力をしているということも存じておりますし、私の所属する国際地域学科は、まさにこの国際交流を地域的にやらなければいけないところですが、先ほど森岡さんからご紹介ありました文京フェスタに、やっと学生も参加することになる運びですので、非常に細かいところからですが、国際交流ができていけばいいなというふうに思っております。

そして、その計画自体を見させていただきますと、担い手のところに文京区の特徴であります多くの大学、その大学というのが本当にたくさん入っているわけですね。それがまさにアカデミーというものを作っていくようにできていくのではないかなというふうに思いますので、それぞれの大学全体で協力していければというふうに思っております。以上です。

○山崎会長：どうもありがとうございました。青木先生が今日は所用で欠席ですが、コメントが寄せられておりますので、事務局の方からちょっと読み上げてください。

○八木課長：代読をさせていただきます。

スポーツ分科会座長を務めさせていただきました青木です。本日は入試業務につき協議会を欠席させていただきました。誠に申し訳ございません。山崎会長のリーダーシップの下、素晴らしいアカデミー推進計画の最終案が打ち出せたのではないかと実感しております。私どものスポーツ分科会においては6名の委員の方々と行政が一体となり、数度にわたる分科会を通じて他の地域にはない、現実性の高い独自のスポーツ振興計画を作ることができたのではないかと自負しております。この民意が反映した計画をぜひとも現実化していただき、文京区民の皆様がスポーツを通じて心や体の健康に寄与できることを期待しております。関係者の皆様、改めてお礼を申し上げ座長のスピーチに代えさせていただきます。以上でございます。

○山崎会長：どうもありがとうございました。最後に生涯学習は私ですが、生涯学習の皆さん方は論客

がそろっておりまして、座長の言うことなんか誰も聞かないところがございます。常に1対1でやり合いました同志でございます。計画については修正が何遍かあった、そういう歴戦のつわものどもが集まった結果の文章で良かったと思っております。ひと言お礼を申し上げたいのは、これは会長として最初の会を思い出していただきたいのですが、最初ですね、さまざまな意見が出ました。基本的な、その大きな文京区の構想の計画とずれが出たらどうするのだというような意見もありました。その折、ずれはずれとして受け止め修正していければよいという思いで進めてきました。幸に参加者の皆さん方が、やはり生涯学んでいこうとする姿勢が共通なものですから、大きくずれることなくうまくまとめられたことを、全体の座長として感謝いたしております。そういう点でありがとうございました。

本当に考えてみれば、平成21年、22年、23年、足掛け3年にわたって私的空間を共有してきた皆さん方に、衷心より感謝申し上げますとともに、改めてお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

(拍手)

以上